

アルバトロスを用いた各種型わく支保工の標準仕様

アルバトロスの支保工は、部材を組み合わせる事で色々な現場・施工方法に対応できます。
各施工例・ポイントをご確認いただき、現場状況に適した工法でご活用下さい。

仕様	許容支持力	ポイント(メリット/デメリット)・推奨施工箇所
パターン① 先行手摺ブレス × 先行手摺ブレス	22.7KN	- 組立てがクサビのみとなるため、簡易に行えます。 - 部材の費用が抑えられます。 - 先行手摺工法で組立が出来るため、安全に作業が行えます。 - XY方向に先行手摺ブレスを設置するため、通行が困難になります。 - スラブ・梁・吹抜け・大空間等、通路が不要な箇所に適しています。
パターン② 先行手摺ブレス × 斜材	22.7KN	- 先行手摺工法で組立が出来るため、安全に作業が行えます。 - 梁間方向が斜材のため、人の通行が可能になります。 - 斜材が伸縮するため、部材種類が少なくなります。(2種類) - 伸縮斜材の組立がクランプのため、ラチェット・インパクトが必要になります。 - 階段部やスラブ・吹抜け・大空間等、人の通行がある箇所に適しています。
パターン③ 先行手摺ブレス × 強化方杖	23.5KN	- 先行手摺工法で組立が出来るため、安全に作業が行えます。 - 梁間方向にブレスがないため人の通行が可能になります。 - 組立てがクサビのみとなるため、簡易に行えます。 - 壁つなぎの設置が必要(2層×全スパン)になります。 - 底・バルコニー等の足場兼支保工に適しています。

※壁つなぎを2層×全スパンで設ける必要があります。

表①

仕様	許容支持力	桁桁 ※両面先行ブレス設置	梁間
パターン① 先行手摺ブレス × 先行手摺ブレス	22.7KN		
パターン② 先行手摺ブレス × 斜材	22.7KN		
パターン③ 先行手摺ブレス × 強化方杖	23.5KN		

610～1829

610～1829

※表の(鋼製踏板)は、組立・解体作業上必要になるため、図面に記載しています。支保工の構成部材としては、除く事ができます。